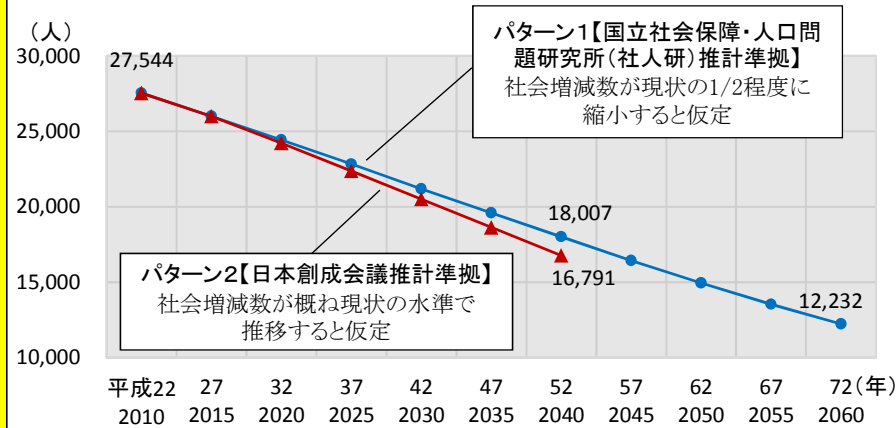


# にかほ市人口ビジョンの概要

## 1. 人口の現状分析

- **人口の構造**
  - ・総人口は、平成22年には27,544人。最も多かった昭和30年の35,944人から8,400人(23.4%)減少。
  - ・総人口の29.0%は老年人口(65歳以上)。
- **自然増減**
  - ・平成11年以降は、死亡数が出生数を上回る「自然減」が続いている。
  - ・出生数は減少傾向、死亡数は増加傾向にある。
  - ・女性の出産年齢は高齢化している。
  - ・婚姻数は、平成26年度には73件。平成20年の110件から37件(33.6%)減少。
- **社会増減**
  - ・昭和57年以降は、転出者数が転入者数を上回る「社会減」が続いている。
  - ・大学等への進学や、高校や大学等を卒業後の就職により、若い年齢層での転出者数が多い。
- **世帯**
  - ・平成22年には9,188世帯。うち20.4%は単身世帯。

## 2. 将来人口の推計



平成52年の推計人口: パターン1では18,007人、パターン2では16,791人  
平成22年人口の60~65%にまで減少する見込み。  
いずれのパターンにおいても、年少人口と生産年齢人口は一貫して減少。  
老年人口は平成32年まで増加し、その後減少に転じる見通しとなっている。

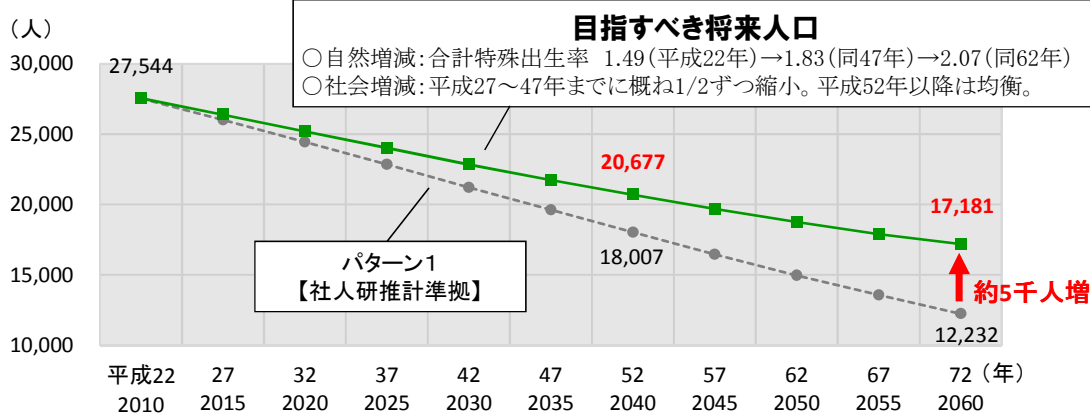
## 3. 人口の変化が地域の将来に与える影響

- **年間消費額**
  - ・年間消費額: 平成17年時点で569億円
  - 平成52年には396億円(平成17年比30.5%減)、平成72年には276億円(同51.5%減)に縮小の見込み。
- **域内生産額**
  - ・域内生産額: 平成17年時点で2,562億円
  - 平成52年には1,685億円。
- **粗付加価値額**
  - ・粗付加価値額: 平成17年時点で1,020億円
  - 平成52年には634億円。
- **地方税収**
  - ・地方税収: 平成17年時点で35億円
  - 平成52年には23億円。

◇地区別人口の増減状況◇  
平成52年には、市内7地区中6地区において平成22年の70.0%以下にまで人口が減少。

### 1~3を踏まえ、にかほ市の将来を展望

## 4. 人口の将来展望



	平成22 (2010)年	平成52 (2040)年	平成72 (2060)年
年少人口(0~14歳)	3,347 12.2%	2,619 12.7%	2,516 14.6%
生産年齢人口(15~64歳)	16,208 58.9%	10,313 49.9%	9,135 53.2%
老年人口(65歳以上)	7,973 29.0%	7,745 37.5%	5,530 32.2%
総人口	27,544 100.0%	20,677 100.0%	17,181 100.0%

## 5. 目指すべき将来の方向性

### ◆ 現状と課題 ◆

- 昭和57年から続く「社会減」**
  - ・進学や就職による若者の市外流出が顕著。
- 平成11年から続く「自然減」**
  - ・出生数の減少には、若い世代の人口減少のほか、出生数の減少、出産年齢の高齢化が影響している。
- 経済力の有無が結婚・出産に影響(市民向アンケートより)**
  - ・独身男性が結婚を希望しない一番の理由は「経済力がないから」が6割と、突出して高い。
  - ・お子さんをお持ちの方の約半数は、理想とする子どもの数より、実際の子どもの数が少ない。最大の要因は、「経済的な負担が大きい」ため。
- 雇用の場の確保が必要(転出者向アンケートより)**
  - ・本市から転出し、市へのUターンを希望している方々が最も重視するのは、「安定した雇用の場があること」。

- 雇用の場の確保や新規卒者の市内就職率の向上に努め、「社会減」の縮小に繋げる。
- 若者の出会いから結婚・出産・子育てまでの切れ目のない施策を充実させ、「自然減」を改善する。
- 人口減少社会の到来を見据え、持続可能で活力ある地域づくりに努める。